



## 格差と公平な社会の実現

小野の春李

鹿嶋市立大野中学校 三年

現代の社会には、さまざまな格差が存在しています。所得や資産の差をはじめ、教育、医療、情報、住む地域による格差まで広がっています。これらの格差は、ときに人の人生を左右し、本人の努力では乗り越えることが難しい格差を生み出しています。

たとえば、家庭の収入によって、進学の機会に差が出るという現実です。塾に通つたり、参考書をそろえたりするにはお金がかかります。大学進学となれば、さらに大きな学費負担がかかります。経済的に恵まれた家庭の子どもとそうでない子どもでは、同じ能力があつても将来の選択肢に大きな違いが生まれます。これは決して本人の努力不足だけでは説明ができません。

また、都市と地方の格差も無視できない問題になっています。地方では病院や学校の数が少なく、交通の便も悪いです。インターネット環境が整っていない地域では、必要な情報やサービスにアクセスすることすら困難な場合があります。こうした地域的な格差も、個人の生活やチャンスに大きな影響を与えています。

このような格差は、社会の分断や不信感を生み出し、「努力すれば報われる」という希望を失わせてしまします。だからこそ、私たちは格差を放置するのではなく、是正しようとする姿勢が必要です。公平な社会とは、結果を平等にすることではなく、「スタートラインを平等にすること」、そして「誰もが自分の力を最大限に發揮できる環境を整えること」であると私は考えます。

では、具体的にどのような取り組みが必要でしょうか。

まず第一に、教育への投資をさらに拡充することが挙げられます。経済的に厳しい家庭の子どもたちが安心して学べるよう、給付型奨学金や学費の無償化制度を拡大します。また、ICTを活用してどこに住んでいても質の高い授業が受けられるよう、デジタル教育の環境整備も重要です。

次に、医療や福祉、インフラ整備といった公共サービスを地域に関係なく等しく提供することも必要です。都市と地方の差を縮めるためには、政府や自治体が予算を適切に配分し、すべての人人が「基本的な生活水準」を確保できるようにする必要があります。

さらに、富の偏りを是正するために、税制の見直しも求められます。大企業や高所得者層が社会に適切に還元し、その財源を教育や福祉に活用することで、社会全体のバランスをとることができます。これは「分け合う社会」を実現するためには必要な制度です。

しかし、制度や政策だけでは限界もあります。私たち一人ひとりが「格差は他人事ではない」という意識を持ち、身近なところでできることを考えることも大切です。たとえば困っている人に手を差し伸べる、フェアトレードの商品を選ぶ、支援団体に寄付するなど、小さな行動が積み重なれば、社会の風向きは少しづつ変わっていくはずです。

格差というのはすぐにはなくなりません。しかし、「全ての人に公平な機会を与える社会をつくる」という目標に向かって努力し続けることが、私たちの責任であり、希望でもあると思います。分断ではなく連帯を、競争ではなく共生を大切にする社会の実現を、私は心から願っています。

